

ヲ放テ皆噉セテ、次ノ度ハ我必ズ被噉ナントス、案内ヲ不知シ人ハ此ノ様ニ難爲也、又力无ラン
人ハ指遣テ噉セム程ニ、必ズ突倒サレナムトゾ云ケル、此レヲ聞ク射手共、希有ノ事ニゾ云合ヘ
リケル、隣ノ國マデ此ヲ聞テ、讚メ嘵リケリトナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔今昔物語三十一〕近江國鯉與鰐戰語第卅六

今昔近江ノ國志賀ノ郡古市ノ郷ノ東南ニ心見ノ瀬有リ、郷ノ南ノ邊ニ勢多河有リ、其ノ河ノ瀬
也、其ノ瀬ニ大海ノ鰐上テ江ノ鯉ト戰ケリ、而ル間鰐戰負ヌレバ返リ下テ、山背ノ國ニ石ト成テ
居ヌ、鯉ハ戰ヒ勝ヌレバ江ニ返リ上テ、竹生島ヲ繞リ居ヌ、此ノ故ニ心見ノ瀬ト云フ也ケリ、彼ノ
鰐ノ石ニ成タリト云フハ、今山城ノ國□□郡ノ□□ニ有ル此レ也、彼ノ鯉ハ于今竹生島ヲ繞テ
有トゾ語リ傳ヘタル、心見ノ瀬ト云ハ、勢多河ノ□□ノ瀬也トナム語リ傳ヘタルトヤ、

〔以曾都堂比〕菖蒲田はまをへて松が濱にいたる、爰は濱々の中に分てめでたき所なりき、松が浦
しまなどいふは、こゝの分名なりけり、○中此海にはわにざめなどいふ荒魚のすめば、こゝなる
海士は恐て底迄はいらでさゝやかなるをのみとりて有しを、此あまはざることもしらざりし
故、水底に入て取つるを、あやぶきこと、こゝなる人は思居しにはたして大わにみつけて追し
故、命をはかと眞手かたいとまなく、浪かき分つ、逃つれども、いとはやくおひ来て、こゝなる岸
にのぼりて、松がねにとりすがりてあがらんとせし時、わに飛付て引おくれたるかたの足を食
たりしを、海士はあがらん、わには引いれんとすまふほどに、あしをつけねより引ぬかれて、くる
ひ死にしにけり、わにはあら波卷返して逃去けり、子はまだ甘にたらぬほどにて有しが、岸にた
ちてみつれどもせんすべなければ、唯泣になきけり、其からをおさめてのち、父の仇をむくひん
とて、日毎にをのまさかりをたづきへて、父がすがりし松が根にたちて、まじろぎもせず海をに
らみて、わにや出るとうかゝひゐけるを、人々孝子也とて哀がりけり、さて年半ばかりも過たる